

観光のゼマンティック—デジタル革命と結びつき 新たに構築されるツーリズム・モビリティ

遠藤英樹（立命館大学）

逆説的なことに、人のモビリティがとまってしまったかに見えるパンデミック以後の現代ほど、モビリティに特徴づけられる時代はないと言える（遠藤 2022）。観光をはじめ人のモビリティがとまってしまったのは、ウイルスが世界中を移動し、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が流行してしまったためである。そして、そのように感染症が世界的に流行したのは、人やモノのモビリティを介してなのである。

本発表では現代のツーリズム・モビリティについて、ニコラス・ルーマンのゼマンティック論（社会システム論的な“意味”論）を補助線に考察する。ルーマンの議論に倣って言うならば、かつて「観光」だとは思ってもしなかったような現象も、「観光」のコードがメタモルフォーゼしゆくゼマンティックのもとで、「あれは観光だったのだ」と“事後的に”分かる場合がある。AI、Zoom、透過型有機 EL ディスプレイ、YouTube、Instagram 等、デジタル革命を経たテクノロジーが介在しつつ（エリオット 2022）、観光のゼマンティックは大きくメタモルフォーゼし、新たなツーリズム・モビリティを構築し始めている——このことについて掘り下げて考えてみたい。

参考文献：

- 遠藤英樹（2022）「[ライティング・ツーリズム—新型コロナウイルス感染症（COVID-19）以後の観光研究](#)」『観光学評論 10(1)』観光学会
- アンソニー・エリオット（2022）『[デジタル革命の社会学—AIがもたらす日常世界のユートピアとディストピア](#)』遠藤英樹・須藤廣・高岡文章・濱野健訳 明石書店